



## 第十回

# 静岡県青少年赤十字 作品コンクール 作品集

# はじめに

赤十字は「人道・博愛」を基本理念として掲げて活動しています。その事業のひとつである青少年赤十字では、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実践目標を掲げ、先生方のご指導のもと、それぞれの学校において、赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう日常生活のなかで様々な実践が行われています。

その一環として、作品コンクールを実施しており、県内加盟校の児童・生徒を対象とした「100文字作文（詩）」、園児を対象とした「ハートラちゃんにてがみをだそう」を募集しました。

その結果、「100文字作文（詩）の部」では14校887作品、「ハートラちゃんにてがみをだそうの部」では2園55作品の応募をいただきました。

この度、その中から選ばれた入賞作品を、作品集としてまとめました。そこに表現された一人ひとりの素直な思いや生き生きとした姿を感じていただきたいと思います。

今後も、作品に込められた思いを大切にし、集団生活や社会での青少年赤十字（JRC）活動がより充実したものになるよう期待しています。

応募にあたり、ご指導いただきました先生方、見守つてくださったご家族の皆様、審査いただきました選考委員の皆様に心から感謝申し上げます。

# 第10回青少年赤十字作品コンクール実施要項

## 1 目的

青少年赤十字加盟校児童・生徒の「人間のいのちと健康を大切にし、尊厳を守る」という赤十字の理念に対する理解を促進し、加盟校における活動をさらに活発にする契機とすることを目的とする。

## 2 主催

日本赤十字社静岡県支部  
静岡県青少年赤十字指導者協議会

## 3 対象

静岡県内の青少年赤十字加盟校（園）の園児（年少・年中・年長）・児童・生徒

## 4 募集作品

### （1）「100文字作文（詩）」の部

ア 次の内容について、指定応募票（10文字×10行）を用いて9行以上の作文または詩。

（ア）青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する想いや主張。

（イ）態度目標である「気づき・考え・実行する」を実践した活動から感じたこと。

（イ）「100文字作文（詩）」の部応募票を使用する。（用紙はコピーして使用する）

ウ B以上の濃い鉛筆またはペンを使用する。

### 実践目標

### 内容（例）

健康・安全	・人間のいのちと健康の大切さ ・防災教育から学んだことなど
奉仕	・ボランティア活動 ・清掃、草取り、ごみ拾い ・草花の世話や栽培 ・動物の飼育など

## (2) 「ハートラちゃんにてがみをだそ う」の部

ア 絵本「ハートラちゃんのおはなし」の読み聞かせや読書を通じて、物語に対して、思ったことや感じたことなどをハートラちゃんへの手紙として絵や文字で自由に表現する。（絵のみ、字のみ可）

イ 「ハートラちゃんにてがみをだそ  
うの部応募票」を使用する。  
同応募票の下部にある園記入欄  
は、園で記入する。（用紙はコピー  
して使用する）

ウ マジック・クレヨン・パステ  
ルなど使用するものは問わない。

## 5 応募方法

応募用紙（様式1）と応募者名簿（様式2）を作成の上、学校ごとに作品を取りまとめ応募する。ただし、応募総数が60点を超える場合は、校内選考を行い、それぞれ60点に絞る。

## 6 応募期間

令和3年7月20日(火)から  
9月30日(木)【必着】

## 7 審査

- (1) 審査は、日本赤十字社静岡県支部及び静岡県青少年赤十字指導者協議会が委嘱した選考委員が行う。  
(2) 審査結果は、12月中旬頃に通知する予定。

## 8 入賞

(1) 「100文字作文（詩）」の部  
支部長賞、指導者協議会長賞、  
有功会長賞、事務局長賞 各1名  
金賞、銀賞、銅賞 各5名  
佳作 26名

(2) 「ハートラちゃんにてがみをだそ  
う」の部

ハートラちゃん賞 5名  
※応募数によっては、表彰者数を  
変更する場合あり。

## 9 表彰

- (1) 入賞者には、賞状と副賞を贈呈する。  
(2) 全ての応募者に、参加記念品を贈呈する。  
(3) 入賞作品を集めた作品集を作成し、入賞者に贈呈すると共に、全加盟校（園）及び赤十字関係者に配付する。  
(4) 応募は、1人1点とする。  
(2) 応募作品は、未発表の作品に限る。  
(3) 応募作品は、基本的に返却しない。  
(返却希望の場合は、支部あて連絡する。)  
(4) 入賞作品は、日本赤十字社静岡県支部が作成する印刷物やホームページへ掲載する。

# 100文字作文（詩）の部



## 「今 私にできること」

三島市立錦田中学校 三年

渡辺 菜央

同じ県内の災害が、どこか遠いできごと  
とのような気がしていた。

そんな時、父が見慣れない作業着を着  
て救助活動に参加していた。

私は義援金活動に取り組んでみた。

少しでも誰かのために。

今、私にできることを。

## 選考委員による講評

災害は、いつ、どのように私たちに迫つてくるか分かりません。「どこか遠いでき」とのよう」と思つていた菜央さんが、父親の姿から「少しでも誰かのために」と心を動かされたことが伝わってきます。

災害を自分ごととして受け止め、「今自分ができることを」と表現された本作品は、青少年赤十字の態度目標「気づき・考え・実行する」につながります。みなさんも共感できることでしょう。



## 指導者協議会長賞

「たつたひとつないのち」

浜松市立伎倍小学校 二年

金原 希逢

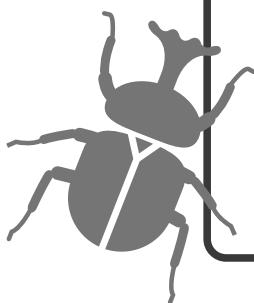
にわの木のあみにカブトムシがひつか  
かつていた。うごいていたから、たすけ  
てスイカをあげた。元気になつて、とん  
でいつた。

小さなのちも大きないのちもたつた  
ひとつ。だいじにしたらぼくもえがおに  
なつた。

## 選考委員による講評

希逢さんが、きっと大好きなカブトムシ。元気のない姿を見て助けられる優しさに感動しました。「小さいのちも大きないのちもたつたひとつ。」等しく命の重みを感じていることが伝わってくる作品ですね。

希逢さんのように命を大切にすることによって、自分も笑顔になれる。それがたくさんの人々に広がっていくと、明るい未来につながっていくでしょう。





## 有功会長賞

「今の自分」

静岡県立浜名高等学校 三年

林 侑太郎

コロナウイルスが流行してから早一年。

感染対策への意識が薄れていらないだろ

うか。

不要不急の判断基準を勝手に下げてい

ないだろうか。

今一度見直してみよう。

大切な友達、家族そして自分の「健康」のために。

## 選考委員による講評

長期間の新型コロナウイルスとの戦いも、ようやく収束が実感できるようになりました。警戒心が薄れつつある今だからこそ、人類に「健康・安全」の警鐘を鳴らす作文です。

新型コロナの感染問題はその感染力から見て世界の全ての国で収束を見ない限り完全な収束にはなりません。そう考えると、収束には医療はもとより情報伝達の在り方等、世界全体の根本的な取り組みが必要です。「まさか」より「もしか」、備えあれば憂いなしです。



## 事務局長賞

### 「温かい思い出」

静岡県立浜名高等学校 三年

富士本 美波

帰り道で荷物が多くて困っているおばあさんに会った。

自転車のかごにのせて家まで一緒に歩いた。

感謝の言葉と共に貰ったパンの美味しいさを、私の手を強く握ってくれたあの手の温もりを、私は一生忘れない。

## 選考委員による講評

多くの荷物を持つて歩いているおばあさんを見て、美波さんの持つ「優しさのセンサー」が反応したのでしょうか。そこで美波さんは、わざわざ自転車を降りて、かごに荷物を入れてあげ、おばあさんと一緒に歩き出します。歩いている時は、心温まる会話がはずんだことでしょう。パンの美味しさ、手の温もり、これらはこの行為を行つた美波さんだけが感じ取れたはずです。

おばあさんも、美波さんと同じように一生忘れないでしよう。



## 「えがおのおくすり」

浜松市立北浜北小学校 二年 伊藤 暖真

おかあさんのびょうきは、なおるおくすりがありません。

元気じゃないとたのしくないです。

だから、ぼくは大きくなつたら、かぞくのみんなやたくさんの人たちがえがおになるようなおくすりをつくりたいです。



## 「会いたいな。」

浜松市立伎倍小学校 四年 高林 紗良

今、会いたい人に会えない。

お友達と遊びたくても遊べない。

苦しくても毎日マスクをする。

でも、マスクを外して思いっきり遊んだり、大好きな人に会うために、今はがんばる。



## 「家族として」

静岡県西遠女子学園中学校 一年 新村 彩乃

はじめは小さな小さな子犬だった。

彼は、少食で、おくびょうで、それなのにいたずら好きで、

色々なことに挑戦した。

共に過ごす中で私は「飼う」が「命を預かる」ことだと学んだ。

私も彼と成長していく。家族として。



## 「遠い国に住む子供達のように」

静岡市立蒲原中学校 二年 松井 那緒

私の母は、海外の子供達を支援する活動をしている。

私達がプレゼントした物は本当に大切にしているそうだ。

一方で、私は物を粗末にしてしまう事がある。

そんな自分を見直して一つ一つを大切にしていると思う。



## 「次は僕の番」

静岡県立浜名高等学校 三年 清水 悠生

僕が小学校一年生で下校して家についた時、ドアは開かなか  
かつた。

焦りと孤独を感じて泣いていた僕に、手を差し伸べてくれた  
のは一人のおばあさんでした。

僕も将来、困っている人に寄り添えるような人になりたい。



## 「やさしい大人たち」

牧之原市立坂部小学校 五年 關 ひかり

あのおばさんは、坂部小学校にボランティアで草取りなどを  
してくれた人。

あのおじさんは田植えを体験させてくれた人。

私も大人になつたら、地域の人達のためになることができる、

やさしい大人になりたい。



## 「元気の力」

藤枝市立藤枝中央小学校 五年 鈴木 理緒

コロナウイルスにかかる人が増えてきて、皆の元気がなくなつた。でも、もしかしたら私の元気と笑顔で誰かを元気にできるかもしれない。だから、私は毎日元気で笑顔に過ごす。

元気と笑顔は皆を助ける薬になるはずだ。



## 「いつもの味」

三島市立北中学校 一年 泉 蘭

じいじはいつも私においしい料理を作ってくれる。

しかし、四年前に病気になり料理が作れなくなつてしまつた。いつもの味から思い出の味に変わつてしまつた。

今度は私がじいじにいつもの味を作る番だ。



## 「食の大切さ」

静岡県西遠女子学園中学校 一年 高井 芽久

私の祖父母は野菜を育てている。

幼い頃から自然に触れ、種植えや収穫の手伝いをした。

大きく育った時はうれしく、自然に負けた時は悲しい。

こんな想いで育てると愛着が湧き、全ての食べ物に感謝する。

この気持ちを大切にする。



## 「国際問題に目を向けて」

静岡県立浜名高等学校 三年 富樫 陽菜

現在、さまざまな国際問題がある。その中の一つが貧困問題だ。

同じ地球に生活しているのに地域によつて生活が全く異なる。

私は将来、誰もが平等に、笑顔の絶えない生活が送れる環境

づくりに貢献できる人になりたい。



## 「命の大切さ」

牧之原市立坂部小学校 五年 福代 成琉

ぼくは、爬虫類をかつてている。

お兄ちゃんはいつもえさをあげたり水をあげたりして命を大切にしている。

死んでしまつたら大泣きし、動物と遊んでいると二コ二コしている。

そんなお兄ちゃんはぼくの自まんだ。



## 「拝啓、ウミガメたちへ」

静岡県西遠女子学園中学校 二年 芝田 紗椰

も、ぞもぞつ、手の平の中で必死に海に向かう姿が私の瞳に映る。

去年の夏、小さな命たちが新しい世界へと飛び込んで行つた。

彼らの甲羅を見送る時、体の割に合わずとても逞しく思い、生きる原動力を彼らに貰つた。



「ありがとう」

三島市立北上中学校 一年 内野倉 朋佳

相手が分かっていると思っている言葉でも、口に出すか出さないかは大きな違いがあると思う。

時には言葉として口に出す事は、簡単そうで難しい。

でも誰でも言われて嬉しい言葉は、大切にしていきたいと思う。

「運を拾う」



静岡県立浜名高等学校 三年 鈴木 瑞心

「みを拾う」ということは「運を拾う」ということ。毎日小さな運を拾い、徳を積めば、自分の気持ちは前向きになり、周囲から感謝され、何事も良い方向に進むようになる。

あなたの周りに「運」は落ちていませんか。

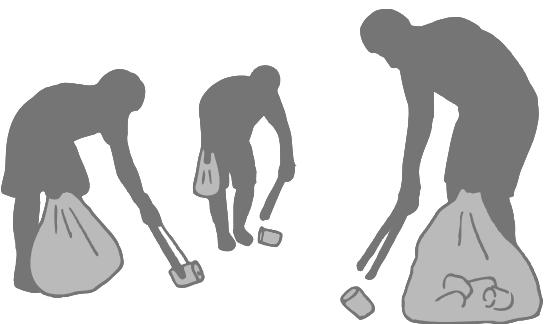
## 「新たな言語を身につけた私」

静岡県立三島南高等学校 一年 黒田 月乃

「手話は一つの言語」前まではジエスチャーの延長線のようなものだと思っていた。

けれど、手話を使って相手に伝えるという行いで一つの言語という認識をした。

私は新たな言語と触れ合うことができた。



## 「運動しよう」

静岡市立大谷小学校

五年 太田 陽輝

ぼくのおじいちゃんは、いつも走っている。そして、いつも元気だ。

健康でいられるように走っているみたいだ。だからぼくも、毎朝運動している。

運動をすることで健康になるから、ぼくは運動を続けていきます。

## 「水は大切」

牧之原市立坂部小学校

五年 須藤 麻友

海外には安全な水が飲めない人がたくさんいる。けれど私は、水をしつかり飲んでいる。

ある国の人たちは水をくみに行かないといけない。時間をかけて水をくみに行く。毎日そのくり返し。私には何ができるのかな。

## 「私が母のためにできること」

牧之原市立坂部小学校

五年 寺田 陽菜

私の母は仕事から帰つても、休みの日でも、家の片づけやそ  
うじをしている。

母はつかれているはずだ。それなのに家のことをする。

私はできるだけ自分で家の片づけをしようと思う。これからも母を手伝いたい。

## 「わたしたちの大切な花」

静岡市立大谷小学校

五年 柳川 いろは

私は学校で園芸委員の一人としてお花を育てている。

週二回でいろいろな花たちの水やりやなえ植えをしている。みんなに明るくなつてもらうためがんばっている。

そこで思つた。わたしたちの大切な花だということを。

## 「救える命」

牧之原市立坂部小学校

六年 酒井 優羽

私は、今委員会でペツトボト

ルキヤップを回収しています。  
これで世界の困っている人たち  
を救うことができます。

私は、困っているたくさんの人を救えるこの活動を、これからも続けていきたいです。

「手洗いをしてウイルスをなくそう」

牧之原市立坂部小学校

六年 良知 駿太郎

ぼくの家族は、仕事から帰つてきたら、必ず手洗いをしていきます。そうすれば、ウイルスは消えます。

## 「リーダーの大事さ」

浜松市立新原小学校

六年  
名倉  
陸

世界中の人が手洗いをすれば、みんなが笑顔になります。だから、これからも手洗いを心がけます。

が、分かると思います。

牧之原市立坂部小学校

六年 澤口 蒼空

私はサッカーをしている。

サッカーを教えてくれるコーチが、学校のグラウンドの草取りやプールの清掃をしてくれた。

その姿を見て、私も自分からボランティア活動をしていきた  
いと思つた。

命は一人一個しかないもので  
す。それを毎朝、あづかつてい  
ると思うと、リーダーの大事さ

ぼくは、通学班リーダーです。  
毎朝登校するとき毎日命をあ  
ずかつて いるような気がします。

## 「みんなのために、みんなで」

浜松市立新原小学校

六年 天野 由佳子

最初はいやだつた委員会。  
新しく入つた委員会。

五年生や友達と、協力してやつ  
てみた。

みんなでやるうちに、楽しく  
なつてきていた。

みんなのために、一人でじゃない。  
みんなのために、みんなでやる  
んだ。

## 「清掃の意味とは」

三島市立中郷中学校

一年 野秋 奈央

町内清掃がありました。夏の  
暑い日曜日の朝にみんなで行い  
ます。

きれいになつた町内を見る  
と、良い気分になり心が豊かに  
なりました。

私もみんなの心が豊かになる  
ことに協力したいです。

## 「一度きりの人生を大切に」

三島市立中郷中学校

一年 中村 芽生

私たちにはかけがえのない命  
がある。

命があるからあたりまえの毎  
日をおくる事ができる。

だから、命をつないでくれた  
家族、あたりまえの日々をおく  
れる事の幸せに感謝しながら一  
度きりの人生を大切に一日一日  
を生きよう。

## 「CO<sub>2</sub>を排出しない父」

三島市立北上中学校

一年 小野 仁亮

僕の父は、毎日片道十五kmを  
ランニングか自転車で通勤して  
いる。

排気ガスを排出していない。  
地球のために、僕が今できる  
ことは、冷房の温度を一℃上げ  
ること。

地球温暖化が急速に進まない  
ことを願い。

## 「思いやり」

静岡市立蒲原中学校

三年 大石 貴之

僕は宿泊体験で酪農体験をした。

牛の体をブラシで洗つたり、掃除をしたりした。

やさしく、丁寧にやると、気持ちが伝わったように牛は気持ちよさそうだった。

そのとき、たとえ動物でも相手を思うことが大切だと感じた。

## 「届いたあなたに」

静岡市立蒲原中学校

三年 戸田 心結

「おはよう。」私はいつものように、学校に行く。背中には、バッグがある。

私のランドセルは、外国にある。

あたり前のように学校に行ける日々。

毎日の楽しさ。

それを、ランドセルを通じて、届いたあなたに感じてほしい。

## 「グロウ」

静岡市立蒲原中学校

三年 朝原 乙葉

私の家では作物を育てている。週末になると家族でお世話をする。

よく帰るところになると疲れたり、手にまめが出来てている。

そんな時、心の中は達成感でいっぱいです。もつと植物を育てる楽しさが伝わればいいのに。

## 「平等つて？」

西遠女子学園中学校

二年 鈴木 まみ

同世代の人でも、生まれ育つた国が違えば生活も抱える問題も全く違う。

同じ八時間勉強を使う人と、水を汲むことに使う人。

お風呂に入ることができる人と、できない人。

この不平等を平等にできるのは、人間だけ。

## 「神社の清掃活動」

西遠女子学園中学校

二年 中村 美心

私は小学生の頃近所の神社の清掃活動に参加した。最初はやりたくないと思った。

しかし、終わった時の達成感が大きかった。

町が常にきれいであるために一人一人が前向きに町内の活動に参加することが大事だと思う。

## 「塵も積もれば」

静岡県立三島南高等学校

二年 伊藤 伶真

紙パックを捨てずにリサイクルする。

こんな小さなことでも大きなエコになる。

紙パックだけじゃない。

プラスチックにペットボトルキヤップをリサイクルすると助かる命が増える。

そんな未来を作つていく。

## 「当たり前じやない生活」

静岡県立三島南高等学校

二年 田中 葉月

私は毎日温かいご飯を食べ十分な睡眠をとり学校に行つている。

私はとても幸せ者だと思う。

平凡な暮らしに思えるが、毎日食事を作つてくれる母や父達がいてこそできる生活だ。一日一日感謝して過ごしている。

## 「希望のワクチン」

静岡県立三島南高等学校

一年 浦田 智理

私たちの今までの生活を取り戻すための希望の1つであるコロナワクチンを世界全体が一丸となつて積極的に打つていくことが何よりも大切だと感じます。

そして打つた人が進んで正しい情報を拡散るべきだとも思います。

## 「小さな生命」

静岡県立三島南高等学校

一年 宮澤 ののか

私の家には保護猫がいる。  
最初は親から捨てられた猫

だつた。

日本での捨て猫の数は減少しているが、それでも0にはならない。

私は保護できる数を増やせ  
るといいなと思うとともに今  
の飼い猫を幸せにしてあげた  
いと思う。

## 「僕らにできること」

静岡県立浜名高等学校

三年 永田 悠真

自然災害はいつ起ころかわ  
らない。

熱海の土砂災害も誰もが起  
るとは予想していなかつた。  
人は後からならこうしておけ  
ば良かつたと言う。

もつと大切なのは事前の安全  
への準備・対策だと改めて感じ  
させられた。

## 「差別」

静岡県立浜名高等学校

三年 森 咲乃

なぜ人は差別をするのだろう。  
黒人や障がい者とかはなぜ  
違う目で見られてしまうのだ  
ろう。

全員同じ人間だけど、違う所  
があつてあたりまえ。完璧な人  
なんていない。  
それぞれ違う所を私は個性と  
して捉えるべきだと思う。

## 「親孝行とは」

静岡県立浜名高等学校

三年 鈴木 陽与

コロナ禍で、命の大切さにつ  
いて考える機会が増えた。

子供が親に出来る一番の親孝  
行は何だと思いますか。

何かをしてあげるとかそういう  
事ではなく、子供が健康でい  
る事が何よりも一番の親孝行だ  
と私は思う。

## 「コロナ禍で見つけたもの」

静岡県立浜名高等学校

三年 河合 亜衣子

コロナ感染が広まつたことで失つたものにばかり目がいつてしまつていたけれど、今までの当たり前の生活や人との関わりがどれだけ自分の中で大切だつたか気づくことができました。

大切なを見つけていきました。

日本は平均寿命が長いことで有名ですが、健康寿命は短いことを知っていますか。

寝たきりの状態ほど退屈なことで大切だつたか気づくことができました。

改善するためにも、自分の今

の生活習慣、食習慣を見直し健

康に長生きしてみませんか。

## 「平均寿命と健康寿命」

静岡県立浜名高等学校

三年 横山 紗理那



# ハートラちゃんにてがみをだそうの部



静岡若葉幼稚園  
年長 今 希鳳

（先生から）  
ハートラちゃんときおくん  
が公園で走って一緒に遊んで  
いるところ。どっちがはやい  
かな？



静岡若葉幼稚園  
年長 杉山 芽衣

（先生から）  
女の子がハートラちゃんを  
助けているところ。  
絵本の一場面を上手に描け  
ました。



ハートラちゃん賞

静岡若葉幼稚園

年長 平野 愛

先生から  
ハートラちゃんが縄とびし  
てているところ。  
ニコニコ笑顔でとても楽し  
しそうですね。



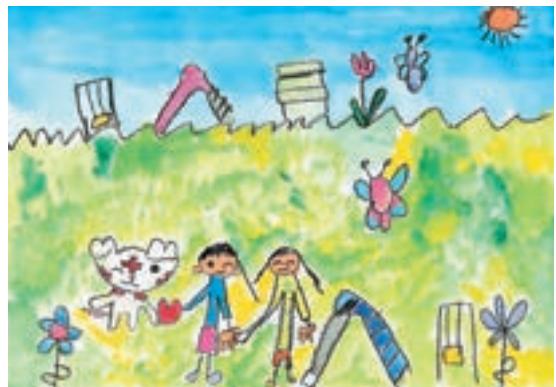
ハートラちゃん賞



小百合キンダーホーム  
年中 今 杏菜

先生から  
ハートラちゃんと楽しく虫  
をとつて遊びたいな。

ハートラちゃん賞



小百合キンダーホーム  
年長 風間 陽向

先生から  
ハートラちゃんと手をつな  
いでお散歩をしていたらちよ  
うちょうを見つけたね。



# 赤十字を知っていますか？

## 赤十字の誕生とは…

1859年、スイス人のアンリ・デュナンは、イタリアで悲惨な戦争を目のあたりにして「傷ついたものに敵も味方もない。」と、人々と協力して、すすんで負傷者を差別なく懸命に救護しました。

その後、デュナンの訴えと努力により、1864年、戦争における負傷兵の保護を定めたジュネーブ条約（赤十字条約）が結ばれ、赤十字が正式に誕生しました。現在、赤十字は、世界192の国と地域に組織され、このデュナンの人道・博愛の精神に基づいて、活動しています。



## 赤十字の事業

- ・国内災害救護
- ・救急法等の講習
- ・青少年赤十字
- ・国際活動
- ・社会福祉事業
- ・医療事業
- ・看護師等養成事業
- ・血液事業

# 青少年赤十字の活動

## 青少年赤十字とは…

青少年赤十字 (JRC : Junior Red Cross) は、園児・児童・生徒が赤十字の精神に基づき、いのちと健康を大切にし、地域社会や世界のために奉仕する心、そして世界の人々と分かり合う姿勢を育むことを目的として、日常生活や学校教育の中で、様々な活動を開いています。

## 実践目標と態度目標

前記目的を達成するために、「気づき、考え、実行する」という自主・自律の態度目標に基づき、次の3つの実践目標を掲げて活動に取り組んでいます。

実践目標	
健康・安全	生命と健康を大切にする
奉仕	人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する
国際理解・親善	広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う

## 青少年赤十字の活動例

- ・健康・衛生活動
- ・献血の呼びかけ
- ・環境美化の推進
- ・社会福祉施設訪問
- ・海岸清掃
- ・災害時の炊き出し体験
- ・N H K 海外たすけあい募金
- ・1円玉募金
- ・国際交流 など

## 加盟形態

学校、幼稚園、保育所単位、クラスや学年単位など学校の都合に合わせて加盟できます。  
集団活動を支えるバッジやワッペン、教材などを提供しています。  
ご興味がある場合には、日本赤十字社静岡県支部までご連絡ください。

## 審査にご協力いただいた皆様

### 選考委員

佐藤

恵

(三島市立北上中学校)

杉山 弓月

(御殿場市立富士岡小学校)

早川 範子

(静岡市立竜南小学校)

鈴木 由紀子

(静岡市立清水岡小学校)

杉本 貴生

(浜松市立伎倍小学校)

森 久美子

(浜松市立新原小学校)

竹下 晋

(静岡県立相良高等学校)

## 総評

今年度も、昨年に統いて新型コロナウイルス感染症が流行し、オリンピック・パラリンピック期間中は猛威をふるつてはいるといった状況でした。そうした中での募集でしたが、多くの皆さんから寄せられ、本当に有り難く思っています。

今回からは、「100文字作文（詩）」と「ハートラちゃんにおいてがみをだそう」の2つの部となりました。それぞれの部について感じたことを紹介します。

100文字作文（詩）の部では、日常生活において目にしたことや体験したことを「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」「気づき 考え 実行する」といった青少年赤十字の目標と関わらせ、100文字で意義ある内容にまとめ上げていました。コロナ禍や大雨による水害や土石流などを取り上げ、素直に目で見つめ思つたことや感じたことを表した作品も、強く心に残りました。

ハートラちゃんにおいてがみをだそうの部では、私と家族、私と友達がハートラちゃんと一緒に何かをしている様子が、生き生きと楽しく描かれていました。ハートラちゃんと心の交流をしているようで本当にうれしく思いました。

こうした取り組みが、「いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」といった日本赤十字社の使命へと繋がっていくと信じます。ご協力有難うございました。

# Profile



日本赤十字社の公式マスコットキャラクターの  
「ハートラちゃん」です。

- **名前**  
ハートラちゃん Heartora-chan
- **住んでいるところ**  
ハートランドの森
- **誕生日**  
5月8日
- **性格**  
苦しんでいる人を放っておけない。  
おだやかな性格だが、時にすばらしい  
行動力を発揮する。
- **目標**  
ひとりでも多くの「苦しんでいる人」を  
救うこと。
- **特技**  
語学(世界中のの人、動物、植物と話せる)。
- **トレードマーク**  
生まれつきおでこにある赤い十字の模様。
- **好きなこと**  
風船ブランコに乗って空をお散歩すること。
- **好きな食べもの**  
ハート形のさくらんぼ
- **心の友**  
ハトのハートちゃん



日本赤十字社 静岡県支部  
Japanese Red Cross Society

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17 TEL 054-252-8131 FAX 054-254-5830



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。